



からしだね

2022年12月号
(587号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任： 中村克徳司祭

住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL： 072-751-2400 FAX： 072-753-4624

URL(ホームページ)： <http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

「神様の気前のよさ」 稲葉善章神父
12月と1月のガラスケースの
み言葉と解説

「ドレミの会」の再開にあたって
聖堂とカール記念館の大掃除と
教会樹木の剪定

マリア幼稚園の研究会の参加報告
死者のためのミサが捧げられまし
た

みんなの談話室

ほっこりした実話から反省したこと
悲しみの聖母教会 ほうもん

典礼委員会からのお知らせ

宝塚黙想の家からのお知らせ

今月の表紙の絵について

「神様の気前のよさ」が示された出来事が最近ありました。今年の10月2～13日まで、ローマの御受難会の総本部修道院で、創立300周年をテーマにしたミーティング（集まり）があり、参加してきました。参加者は、総勢70名でした。内訳として、アジア地区14名（わたしを含みます）、アメリカ地区9名、アフリカ地区9名、北ヨーロッパ地区14名、スペイン地区11名、イタリア地区13名。彼らとこの期間、この場でミサ、食事、ミーティングを共にしました。ミーティングは、毎日行われました。ミーティングとは言え、この人数を収容し、言葉の問題を解決するため（英語、イタリア語、スペイン語が、同時通訳されます）、国際会議が行われるホールで行われました。毎日行われたミーティング、この中で、「神様の気前のよさ」が示された出来事があります。わたしは、ミーティング開始時間15分前には着席するようにしていました。この時点では、集まっている人は、まだまばらです。10分前、次第に人が集まり出します。5分前引き続き集まってきました。開始時刻、集まった人の数は約60%です。それでもミーティングは開始されます。5、10分経って70%、30分後で、ようやく90%、40分経過する頃、全員集まります。

何事もなく、支障もなくミーティングは行われてゆく中で、興味深い傾向が見受けられました。ミーティングに遅れてくる人たちは、そうでない人たちよりも積極的に発言する場面が多いことでした。この一連の流れが、わたしに「神様の気前のよさ」を示してゆきます。その示しは、遅れることが悪い、遅れてはならないと言う次元ではなく、遅れようが遅れまいが、ここに集まった人たちすべてに、しかも平等に発言する権利が当然ながら与えられていることを強く認識させました。この認識が、さらに神様の気前のよさへと導きます。ある聖書の箇所へと導きます。

ぶどう園のたとえ話、主人は、夜明けに出かけて行って労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ、十二時ごろと十五時ごろにまた出て行き、同じようにした。十七時ごろにも行ってぶどう園に送った。夕方になって、ぶどう園の主人は一デナリオンずつみんなに払いました。しかし不平をいうものがいた。対して主人は言いました。『わたしの気前のよさをねたむのか。』マタイ20・1～16 神様は、出来事を通して、確かにわたしに「神様の気前のよさ」を示してくださいました。逆に、わたしの目に映る出来事は、わたしの狭さ、小ささを痛感させました。

神様は、具体的な現実の出来事の内側に「神様の気前のよさ」を秘められていて、同時にそれをいつも示してくださっている。けれども表面しか見ないわたしに、内側にある大切なことに気づくように、「神様の気前のよさ」を示してくださいました。この気前のよさと訳されているギリシャ語（ἀγαθόςアガソス）には、神様の慈悲深さと言う意味もあります。ですから、神様の慈悲深さは、いつでも現代を生きるわたしたちに示され、与えられていることにも気がつかされます。人の目に映る現実、出来事の外側から内側へと導く招き入れ、これが、この気前のよさと訳されている「神様の気前のよさ」を示してくださいました出来事です。

12月・1月のガラスケースのみ言葉

わたしたちは、大きいことはできません。

小さなことを大きな愛をもって行うだけです
マザーテレサ

12月・1月のみ言葉についての解説

中村克徳 神父

わたしがまだ20代の頃、あるアメリカ人司祭から次のような話を聞きました。まもなく司祭叙階を迎える一人の神学生がいました。ほどなくして修道会では、数名の叙階候補者たちに許可を与えるか否かの会議が行われたのです。他の神学生は問題なく叙階の許可が認められましたが、彼については長い意見交換が行われました。問題とされたのは、彼は人前で話をするのができないという点でした。人前に出ると上がってしまい、ほとんどまともに会話をするのができなかつたのです。司祭は人前で神様について教え、説教しなければなりません。誰もが、彼がその任に任せられるとは思いませんでした。しかしながら、彼はとてもまじめで厚い信仰を持っているので、叙階許可を与えてもよいのではないか、という意見が出されたことにより、特別に許可を与える決定が下されたのです。

叙階後の彼の司祭生活は、通常の司祭の歩みとは大きく異なっていました。人前で説教することを禁じられたのです。第二バチカン公会議前の修道会では、司祭と一般の修道者との役割分担は明確に分かれていました。修道者は修道院の生活を支えるための仕事に就くことが常であり、掃除や洗濯、炊事といった家内の仕事や畑仕事などに専念することが求められていたのです。彼が任せられたのは司祭の仕事ではなく、修道者がする仕事でした。この仕事を彼は不平を言うことなく、黙々とこなしていきました。

彼がひとりで畑仕事をしていたある日のことです。近所の農夫が彼の下にやって来てこう言いました。「神父さん、わたしはどうも耳が聞こえなくなりました。わたしのために祈ってください。」彼は持っていた鍬を置いて、何も言わずに農夫の両耳に手を当てて静かに祈り始めました。しばらくすると農夫は驚きのあまり声を上げました。「神父さん、聞こえます！耳が聞こえるようになりました！」この司祭は生涯にわたって人前で説教することは叶いませんでした。その代わりに、神様から聖なる人となる大きな恵みをいただいたのです。この司祭は、あたかもマザー・テレサの言葉を文字通りに実行したかのような人生を歩んだのです。

マザー・テレサ自身、何か大きなことを成し遂げようと計画したわけではなく、電車の中で神様からの呼び掛けを受けて、最も貧しい人たちのところに身を置くところから始めました。道端に倒れて今にも息を引き取ろうとする人を引き取り、汚れた体を洗い、食べ物を与えたのです。これまで誰からも愛されたことのない人々にとって、初めて体験する愛に満ちた行為に、ある人は困惑し、ある人は涙を流しました。彼女を訪ねてきた教え子たちは、そうした彼女の姿を見て驚き、誰からということなく手伝い始めました。それは人づてに次第に広まっていき、世界中に拡大する大きな活動へと発展していったのです。

わたしたちは大きなことはできませんが、小さな愛を積み重ねることによって、神様がそれを完成させてくださいます。この教えを忘れずに、身の回りにある小さなことを、愛をもって行っていきたいものです。

「ドレミの会」の再開にあたって

猛威を振るっていたコロナも少し下火になり、あちこちでいろいろな活動が再開されています。子供たちや親御さん、友人、会のスタッフも待っていることでもあり、2年8か月間お休みしていた、「ドレミの会」を評議会にも報告し再開することにいたしました。

先日、新しく教会に来られた方が「ドレミの会って何ですか？」と聞いてこられました。28年活動している間に、新しく来られた方も多く、ご存じない方のためにも、簡単に「ドレミの会」の紹介をさせていただきます。

簡単に言いますと、「ドレミの会」とは、安心して遊びに行く場所の少ない障がいを持った方々の遊び場であり、保護者の方々にとっても安心して気兼ねなく参加できる交流の場です。

「ドレミの会」の原型は1971年フランスのジャン・バニエ氏とマリア・ヘレン女史によって始められた「信仰と光」の共同体です。その精神は「どんなハンディキャップの重い人も、人間として愛され、尊敬され、選択の自由を与えられる権利があります。どんな人も神によって平等に愛されているのですから。」というものです。

共に集い、歌ったり、踊ったり、一緒にお茶を飲んだりするうちに、彼らの持つ賜物、例えば心の純粹さ、謙虚さ、率直さ、優しさに触れ、私たちはそこに神の賜物をみて癒されるのです。このようなグループは世界に700か所以上あり、日本では東京、奈良などで活動されています。

わたしたちの「ドレミの会」も28年続いています。小学生だった子が立派な大人の年齢になりました。ハンディーを持った会員は30名、スタッフ12~3人、友人として参加してくださる方が5~6人です。保護者の方も多く参加されます。楽しい時間を提供して下さるゲストも、様々な特技で皆を喜ばせてくださいます。本当に感謝です！

ここで、皆様にお願いです。12月10日3年振りに「クリスマス会」を開きます。彼らに渡せる、お家に眠っている品物がありましたらクリスマスプレゼントにさせていただきますと思います。是非、ご寄付ください。使ってない物なら何でも結構です。カール記念館の和室に段ボールを置きますのでその中に入れてください。12月10日当日の朝まで受け付けます。

また、「ドレミの会」の子供たちと一緒に時を過ごしてみようと思う方は、毎月第2土曜日の午後2時から4時まで活動していますので、気楽にのぞきにきてください。皆人なつつこくて笑顔で迎えてくれます。再開するにあたり、コロナ感染対策には特に注意するつもりです。

よろしくお願いたします！

福音宣教委員会 「ドレミの会」担当

聖堂とカール記念館の大掃除と 教会樹木の剪定

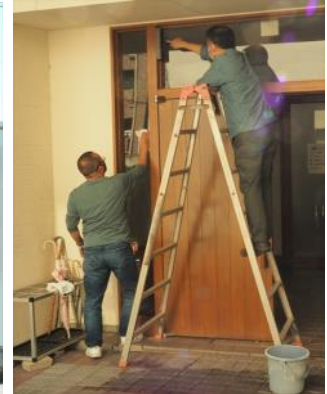
総務委員会の呼びかけで、都合のつく方がたによって新カトリック年の始まる前に11月6日（土）と同月9日（水）聖堂の床掃除（ワックス掛け）と樹木の剪定が行われた。幸いなことに、いずれも、小春日和で汗をかくほどの温かい日だった。6日のワックス液による清掃では3人の男性信徒が重い椅子と電動ブラシューイング掃除機を動かし、多くの女性信徒が床から洗いだされた汚水をモップなどで回収した。

9日は、剪定や刈込をシルバーセンターからの派遣された3人の技能者が刈り落した枝葉をシニア信徒が収集して、袋詰めにする作業を行った。大阪司教区のお仕事がなかった軽装の中村神父は鋸を用いて太い幹の胴切りもなされた。

（文 大野）

11月12日土曜日の10時から12時まで、大掃除をしました。植木剪定の日と同じ週でしたが、ボランティアが大勢集まりました。中村神父様をはじめとして、それぞれが自発的に持ち場を担当して働きました。主な清掃箇所は、聖堂、外構、草引き、空調のフィルター、窓ふき、厨房、和室、倉庫、およびその他の目についた場所の整理整頓などです。最後に中庭から門に向かって水を流して清掃すると、すがすがしく仕上がりました。そのあと、6日と9日と同様に地区委員会が準備したお茶とおにぎりできつろぎ、主の平和に満ちた一日となりました。

（文は延原、許可なしの写真撮影は大野）



マリア幼稚園の研究会の参加報告

池田教会に隣接するマリア幼稚園は11月18日（金）に幼児教育の外部評価のための研究会を催した。池田教会とマリア幼稚園（当初は児童館）は売布の御受難会がそれぞれを1955年と1959年に創立し、その後運営面でも主任司祭や理事長が派遣されるな

どしてきたので、両者は兄弟的な関係にあって、その施設を融通し合っているだけでなく、長い期間に亘って、合同でバーザーを開催してきた。また、マリア幼稚園の卒園児童や在園児童の一部は池田教会の日曜学校の生徒として育成されてきた。今

回の幼稚園教育に関する外部評価のための研究会を開催することは、御受難会にとっては学齢未満幼児の信徒育成施策の一部であり、幼稚園にとっては園児教育の内容・方法を研究する取り組みの一つである。外部評価の研究会に参加したメンバーは設置者の御受難会から池田教会の中村克徳神父と日生中央教会の畠基幸神父、大学在籍の幼稚園教育の専門家、池田教会の信徒（13人の女性と2名の男性）だった。

幼稚園に玄関から入館しただけで園児たちの高い声が響き渡り、教室の一つに誘導されると、中央に丸く並んだ小さな椅子（机はない）には31名の園児（天使組と命名されたこの組には4月に入園した3歳児と4歳児）が腰かけていた。彼らは頭と眼を回して見知らぬ大人たちを眺めていた。入口からの奥まったところに一人の若い先生が立ち、反対側の教室の入り口付近にもう一人の若い先生がいた。園長さんと外部評価員が園児たちの後方に置かれた大人用の椅子に着席するのを待って、本年度に始めた新しい教案に基づく授業を始められた。まず、奥の先生が一人ひとりの園児の名を呼ぶと、名指しされた園児は待ってましたばかり、手を挙げて、大きな声で返事しながら起立した。ほとんどの子は緊張しているようには見えず、返事するのが誇らしげであったので、老齢の評価員にはそれだけでも驚異であった。新たなことやその環境が変わっただけでも、いつも失敗や落ち度がないかと構えてしまう悪癖があるからだ。

45分の授業が始まるとその内容が豊かなことにもっと驚かされた。4つのセクションに別れていて質問の答えは3択になっていて、園児らが選ぶのに時間が要らないし、間違えてもそれを後に引きずらないほど先生の正解開示後の話が更に展開されるのに惹きつけられていた。

第一のセクションでは、顔輪郭の大きな絵に顔を構成する4種類の器官（眼と鼻、口、耳）を描いた絵を見せて、生きるのに欠かせないそれぞれの役割を園児たちに回答させて、4個の器官を配置して、顔の絵を完成させた。こうして、周りの部分にある他の部分を思いやる言葉をかける気持ちを育むのが目標のようだ。

第二のセクションでは、歌「きのこ」を各自が振付をする。メロディとリズムでここに迫り、身体を動かして、その楽しさを全身で表現するので、表現の喜びとその欠かせぬ要素を記憶として沈着しやすくしているようだ。

第三のセクションでは、狂言にある「ややこしや、ややこしや」などの「ことば遊び」に倣って、二つのことばにある相違に気付かせるように繰り返させた。最初は、大きく発声させる練習のようだが、その言葉に評価員はビックリした。「神さまは喜びだ！、神さまは喜びだ！」や「わたしは一体なんじゃろな！、わたしは一体なんじゃろな！」、を繰り返したのだ。神さまへの信仰や神さまへの回心の高年化を抑えるのに役立つのかもしれない。園児たちはその意味を理解したとは思えないが、園児が躊躇する様子は微塵もない。

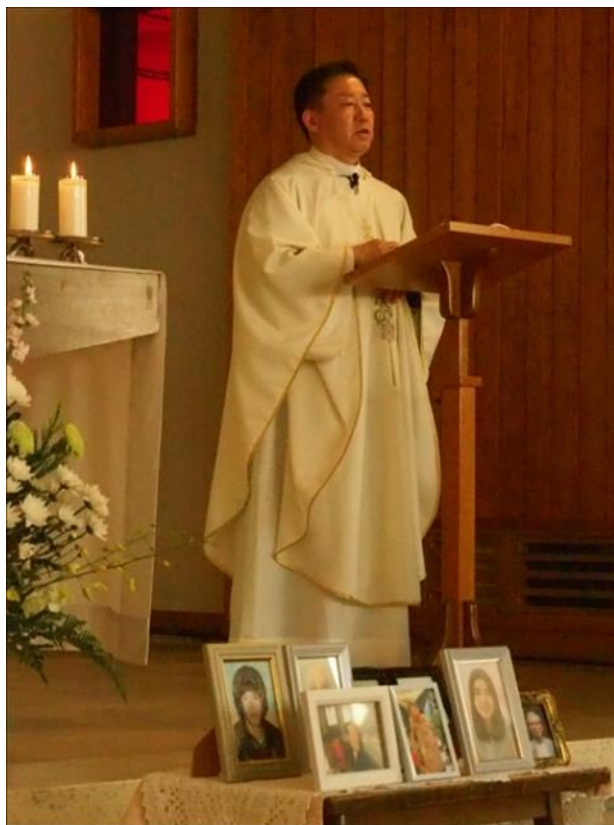
内容はともかく、繰り返し易く、単純な言葉が良いようで、最初の2つのことばにその逆順を続ける「一人で二人、二人で一人」や「わたしであなた、あなたでわたし」、「わたしでみんな、みんなでわたし」。最後の「みんなで」と「わたし」が同じであれば集団と個人が重なる部分があつて、思いが全面的に同じであればわたしとみんなは平和になるが、思いに相違があれば“みんなで”作る世界はファンタジーに終わる。最初のことばとその対語のようなのを続ける「表と裏、裏と表」、「真と嘘、嘘と真」の対は事実の多面性を強調することばの組であり、現実には負けないで、米国の首都ワシントンでのキング牧師のように現実世界で一致できる側面を増やす連呼「わたしたちには夢がある！」などがあつても良いかもしれない。

第四セクションでは、道路にあるマンホールの謎解きゲーム（遊び）。三択から、家庭や工場などの排水路地下水路の点検・清掃の入り口であり、地下通水路を経て浄水場で下水処理されて、一部は環境浄化や水道水などに再利用される。水と環境の大切さを知るのが目標であるが表から見えない部分をしっかりと想像しましょうという願いなのでしょう。

死者のためのミサが捧げられました

11月は死者の月と呼ばれ、1日（木）は諸聖人の祭日と2日（金）は死者の日になっていて、教会の交わりの中で一生を終えた人々すべてが記念され、キリストとの交わりの中で帰天した方々とともに祈ります。

池田教会でも年間第30主日（6日）の朝ミサに加え、14時から「死者のためのミサ」が本年初めて開かれました。特別ミサは納骨室を隣室とする聖堂にて中村神父によって司式され、諸聖人や納骨室の帰天者の家族や関係者など60余名が祈りを捧げました。聖堂の祭壇前や納骨室には帰天された御受難会の司祭や信徒の方がたの写真や花が置かれました。



みんなの談話室

ほっこりした実話から反省したこと マリア・ベルゲッタ J.U.

私は年末年始生まれである、ああとうとうもうすぐ1つ歳を重ねることになる。半世紀以上ってなあ…うれしくないです、正直なところ。

あるYouTube動画でこういうのがあった。実家で黒猫を飼っていた、ある時から白猫を連れて帰ってきて自分の家で二匹がじゃれ合うのをみたりする様になった。その内その白猫の首輪に手紙を付けた。「かわいいですねいい子ですね」みたいな。そうす

ると今度は自分の黒猫の首輪に「とてもおとなしい子ですね」というような手紙が括り付けられて帰ってくるようになった、そして動物病院でばったり飼い主さんご対面。それが今の奥様というお話し。

私は今まで「自分の夢をかなえるためには頑張らないと！」「頑張らないから結果が悪いのだ」「なにかしら私に能力がないから劣っているからうまくいかないのだ」などという考えにとらわれていた。あまり日

本の教育を悪く言いたくないが「100点満点を目指す」という学校教育の影響が大きいと思う。「教育の罨」というよりこれはもう「洗脳」ではないだろうか？

良い点数を挙げるには努力や忍耐が必要だ。そして良い点数がないと「良くない成績の生徒」いや「出来が悪い」というレッテルを先生からも周りからもつけられ、はては親からも「困った子」とさえ言われてしまう。でも「努力でどうにかなるものではないのが人生」なのではないだろうか？努力を怠っていいと言っているのではない、努力は大切だと思う。だけどもなにかしらこの方向性はおかしいと思う。

「努力すれば」。これは完全な「人間主導」の思考回路だと思う。「相手の、子供の努力が足りないからうまくいかない」という「責任転嫁」が始まる…。アダムとエバの犯した最初の罪も「責任転嫁」だったではないか？アダムはエバのせいにし、エバは（神の創った）蛇のせいにした。

神のはからいは「自分が頑張ればすべてうまくいく、相手も努力すればうまくいく」という傲慢な想いがないところにこそ働くのではないかなあと、この年になってようやく感じるようになった。それは若枝ではなく年輪をそれなりに重ねたからかもしれない。

悲しみの聖母教会 (Our Lady of Sorrows) ほうもん

直

パディントンという駅がロンドンにある。市内でも西側のターミナルで、ヒースロー空港まで半時間で到着できる急行の始発駅。6日日曜日、パディントン運河が近くにある“Our Lady of Sorrows”教会を訪ねてミサにあづかった。マイケル・ジャムロウッチ神父が司牧されている。事前に許可を得ていたのでミサや教会の様子を写真におさめることができた。

アジア系の信者さん、中東出身の移民の方など、ミサの参加者はカトリックの多文化主義をつよく感じさせた。イギリスのミサは厳肅だとおもった。アメリカ南部ジョー

ジアにあるカトリック教会で、一年ちかくミサにあづかったことがあったが、それと比べても、たしかにパディントンのミサには微妙にちがった重々しさがあった。英米の国民性のちがいということか。もっとも日本人にはなじみやすいかもしれない。

マイケル神父はご両親がポーランド人。お父様はナチの迫害をのがれてヨーロッパをさまよひ、最後にロンドンに落ち着かれ、おなじポーランド出身の看護婦だったお母様と知りあってご結婚された。カトリックという宗教が世界中に基盤をもつことを実感した。



典礼委員会からのお知らせ

クリスマスのミサについて

12/24 (土) のクリスマス夜半のミサ：
17 時と20 時からの二回。

12/25 (日) のクリスマス日中のミサ
9 時から。

聖歌隊からのお知らせ

聖歌グループメンバーを募集します。

尚、新しいミサ曲は2023/1/22から練習を開始します。月1回程度。

新しいミサ曲はミサの前にオルガンでメロディを流します。

典礼委員会

宝塚黙想の家からのお知らせ

■ 日帰り黙想会 10:00~15:30

12月20日(火) 指導：稲葉 善章 神父

12月22日(木) 指導：染野 治雄 神父

12月23日(金) 指導：山内 十束 神父

■ 一泊黙想会

12月20日(火)17:00~21日(水) 15:30

指導：稲葉 善章 神父

12月23日(金) 17:00~24日(土) 15:30

指導：染野 治雄 神父

■ カトリック教会のカテキズム

12月 7日(水) 10:00 ~ 12:00

12月21日(水) 10:00 ~ 12:00

指導：染野 治雄 神父

■ 聖地エルサレムを学ぶ

12月22日(木) 10:00~12:00

指導：笹田六合豊 修道士

■ ギリシャ語で味わう聖書のことば

12月 6日(火) 10:00~12:00

指導：稲葉 善章 神父

■ 聖書の基本

12月 7日(水) 10:00 ~ 12:00

12月21日(水) 10:00 ~ 12:00

指導：山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797 (84) 3111

今月の表紙の絵について

表紙の絵は「神秘の降誕」とタイトルがつけられた、フィリッポ・リッピ (1406~1469) が1459年に描いた油彩作品である。フィリッポ・リッピはイタリアのルネッサンス中期、つまり15世紀前半に、フラ・アンジェリコとともにフィレンツェ派を代表する画家だった。この絵は、新しいメディチ宮殿のマギ礼拝堂の祭壇画として描かれた。

上からは父なる神が慈愛に満ちたまなごしを注ぎ、聖霊をかたどった鳩が幼子イエスへ光を投げかけて祝福している。左端には少年の洗礼者ヨハネが長い杖を手に立っている。その上では、カマルドリ修道会の創設者、聖ロムアルドが拝んでいる。メディチ家とカマルドリ修道会は関係が深かったと言われている。ご降誕の絵にはつきものの、馬小屋や牛や羊、天使や羊飼いがいないし、聖ヨゼフすら描かれていない。しかし、草花の上にふわりと横たえられた、誕生したばかりのイエスを拝む、聖母マリアの清らかさが胸に迫る。

現在はこの絵はベルリン絵画館に收藏されている。

編集後記

朝、目を覚ますと私は眼鏡をかけます。出かけるとなるとマスクを着用。時には音楽を聞くため、イヤホンを装着します。ふと気がつくとうちは様々な負担をかけてしまっています。

パウロが「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つである」(「コリントの信徒への手紙一」12章)と書いたとき、耳がここまで働かされる時代が来るとは思っていなかったのではないのでしょうか。

夜眠る前、一日の働きを労るように耳をマッサージしてやると耳は喜んでくれるようです(もちろん、耳が声を上げることはないのですが)。

パウロ